

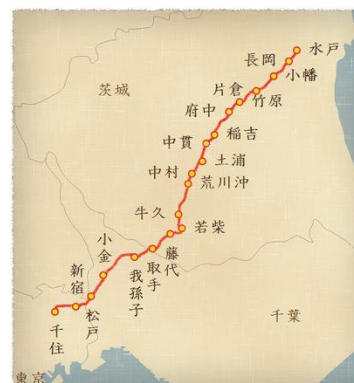
## 一言メモ

(旧街道ウオーキング-人力より)

水戸街道は千住宿を基点に、松戸宿、取手宿、土浦宿…と経て、水戸に至る約 116 kmの行程。水戸徳川家と江戸を直結する幹線道路として、五街道に次ぐ重要な存在だった。時は慶長 14(1609)年、徳川頼房が水戸藩主となり徳川御三家が誕生した。徳川頼房は、家康の 11 男。慶長 8 年、山城伏見城で生まれ、常陸下妻 10 万石に、そして慶長 14 年には水戸 25 万石に移封された。これにより、水戸藩は徳川政権下で大規模なものとなった。水戸徳川家は将軍の補佐役と目され、江戸に生活の本拠を置いていた。

まれに、藩主が国許に下るときの行列は盛大で、重役から町役人一同、

土下座して送り迎えしたと伝えられている。それが、時代劇の「下に、下に」の台詞で知られるあのシーンだ。水戸街道は水戸徳川家の勢力拡大により、整備がさらに進められた。それゆえ五街道の混雑などを避けるため、23 家もの大名が利用したと伝えられている。その数は東海道、奥州街道、中山道に次ぐ。水戸街道はまた、百万都市・江戸への物資輸送路としても利用され、街道沿いの発展にも繋がった。そして、その発展により水戸藩にも潤いをもたらされた。



**取手宿 とりでしゅく** (茨城県取手市) 取手宿が水戸街道の宿場町に指定されたのは、天和年間から貞享年間にかけての時期(1681 年～1688 年)で、他の宿場町より少し遅れて指定された。取手宿は、利根川水運の拠点地・物資集積地でもあった。当時は 200 軒程度の家並みが並ぶ大規模な集落を形成していた。

**藤代宿 ふじしろしゅく** (茨城県取手市) 藤代駅を挟んで西側が藤代宿で東側が宮和田宿であった。2 宿で 1 宿の機能を果たしており、本陣は双方にあり、交代で役目を務めていた。藤代宿本陣は昭和 30 年の町村合併時に町役場建設のため壊されてしまったが、現在の中央公民館の位置にあった。

**若柴宿 わかしはしゅく** (茨城県龍ヶ崎市) 若柴宿はクランクを繰り返した、八坂神社の先約 500m の範囲にあたる。若柴宿と牛久宿は一里(4km)と近いので本陣は置かれていなかった。

**牛久宿 うしくしゅく** (茨城県牛久市) 牛久宿は、本陣 1 軒、脇本陣 0 軒、旅籠 15 軒であった。水戸街道のほぼ中央に位置する重要な宿駅であった。

**荒川沖宿 あらかわおきしゅく** (茨城県土浦市) 現在の茨城県土浦市荒川沖西にあたり、宿場町は南北に数 100m の範囲で広がっていた。小規模な宿場町で、本陣は置かれていなかった。宿場町としての役務は隣の牛久宿と分担して行っており、荒川沖宿のみで完結したものではなかったという。正規の宿場町ではあったものの、継ぎの宿という位置づけであったとされる。



取手宿本陣



明治天皇牛久行在所跡



荒川沖一里塚